

# 「第三学区新構想高校実施計画検討会まとめ」

＜人・社会・希望につながる学校＞の具体化

平成20年3月

第三学区新構想高校実施計画検討会

## 目 次

I 検討の趣旨及び経緯	1
II 検討内容	1
1 教育目標	1
(1) 「充実したキャリア教育」について	1
① 3年間系統立てた継続的なキャリア教育の取組み	
② キャリア教育の具体化	
③ キャリア教育推進体制	
(2) 「徹底した学力の伸長」について	5
① 生徒それぞれの進路希望を実現させることを目的とする学力伸長へ向けた取組み	
② 学力伸長の具体化	
(3) 「積極的な地域連携」について	6
① 連携教育の取組み	
② 連携教育の具体化	
(4) 「豊かな心の育成」について	7
① 「豊かな心の育成」の取組み	
② 「豊かな心の育成」の具体化	
2 科目群（系列）	9
(1) 科目群の考え方	
(2) 科目群の具体化	
3 教育課程	10
(1) 必修科目と学校指定必修科目	
(2) 選択科目	
4 二学期制	11
(1) 二学期制の考え方	
(2) 二学期制の具体化	
5 学校運営	12
(1) 学校運営の考え方	
(2) 学校運営の具体化	
6 学事コンピュータシステム	13
(1) 検討の視点	
(2) 求められる機能	
(3) その他	

## I 検討の趣旨及び経緯

平成21年4月に予定している須磨高等学校と神戸西高等学校の再編・統合について、平成19年3月に策定した「第三学区新構想高校基本計画」を具体化するため、学識経験者、市立高等学校長、須磨高等学校及び神戸西高等学校の教員ほか市立高等学校教員並びに教育委員会事務局をもって構成する「第三学区新構想高校実施計画検討会」を設置し、教育目標をはじめとする新構想高校の特色のある教育内容について検討を行った。

平成19年9月には、須磨高等学校・神戸西高等学校及び他の市立高等学校教員の理解を得て「中間まとめ」を行った。その後「中間まとめ」では検討していなかったキャリア教育や教育課程等の内容について、両校の教員や市立高等学校長及び校長会からの推薦による市立高校の教員によって構成された16部門の専門部会を設置し、半年間にわたってそれぞれ検討を進めてきた。この度「中間まとめ」とその検討結果を加えて、第三学区新構想高校実施計画検討会のまとめを行った。

## II 検討内容

### 1 教育目標

#### (1) 「充実したキャリア教育」について

##### ① 3年間系統立てた継続的なキャリア教育の取組み

- a 自己の進路を見つめ、学ぶ意欲の高揚と基礎学力の伸長につなげるために、1年次では「産業社会と人間（2単位）」の時間に「キャリアプランニングⅠ」を設定する。前半でフューチャープラン（将来設計）を作成するために、進路に向けた自己理解（進路適性検査）や職業調査、職業インタビュー（夏休み）を行い、後半でフューチャープランを完成し、3年間を見通した2年次での選択科目を決定する。
- b 2年次では1年次を引き継ぎ、自己の進路実現に向けて「総合的な学習の時間（1単位）」に「キャリアプランニングⅡ」を設定する。前半で進路別進路学習や大学・企業訪問、社会体験をねらいとしたインターンシップ（夏休み）を行いキャリア教育の充実を図る。後半で3年次の選択科目の決定や3年次に実施する「課題研究」に向けて準備としてのプレ課題研究を行う。
- c 3年次ではキャリア教育の発展をねらいとして、「総合的な学習の時間（1単位）」を前半に集中させ「キャリアプランニングⅢ」を設定し、各自のテーマに基づく課題研究を行い、問題解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。
- d このようなキャリア教育の中で、フューチャープランに沿った資格取得にも積極的に取り組む指導を行う。

なお、1年次の「総合的な学習の時間（1単位）」には、「人間関係」を設定し、「豊かな心の育成」を行う。

「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」の内容

教育目標	科目	1年次				2年次				3年次			
		前半		後半		前半		後半		前半		後半	
		時数	内容	時数	内容	時数	内容	時数	内容	時数	内容	時数	内容
充実した キャリア教育	キャリアプランニングⅠ (産業社会と人間) [1年次2単位]	2	自己理解・職業調査・職業インタビュー	2	フューチャープラン完成・選択科目決定等								
	キャリアプランニングⅡ・Ⅲ (総合的な学習の時間) [2・3年次で2単位]					1	インターンシップ等	1	選択科目決定・プレ課題研究等	2	課題研究	2	自己の進路に応じた他の科目を選択
豊かな 心の育成	人間関係 (総合的な学習の時間) [1年次で1単位]	1	人間関係	1	人間関係								

※ この他 HR・授業・学校行事等も含めた中で系統的なキャリア教育や「豊かな心の育成」を实践

① キャリア教育の具体化

○ キャリアプランニング I

キャリアプランニング I (1年次 通年週2時間)			
テーマ	自己理解と職業理解		
月	内容	備考	
自己理解・職業調査・職業インタビュー等	4月	総合学科全体オリエンテーション	本校の教育システム全般を理解(初年度は校内でオリエンテーション)
		キャリアプランニングオリエンテーション	キャリア教育の意義を理解(ワークシート)
		学習計画(I)	「学ぶ」ことの意義を理解(ワークシート)
		学力調査	(キャリアプランニング・人間関係・HRの中で)「学力定着プラン」達成に係る入学時学力の把握・少人数授業のクラス分け資料
		自己肯定感の養成	「25歳の私から母校新入生への手紙」(構成的グループエンカウンタ)
	5月	自己分析	アセスメントツール(エゴグラム) 交流分析
		自己理解の促進	社会人講話(ワークシート)
		生き方・働き方の探究	「生きる」、「働く」ことの意義を理解 (ワークシート)
	6月	進路適性分析	進路適性検査(アセスメントツール)
		社会環境の探究	興味・関心にもとづいた学問領域、職業の実態を理解(ガイダンスツール)
		前期中間考査(6月中旬)	
		職業インタビュー準備(I)	仕事と資格の関係など働き方の理解(ワークシート)
		進路環境説明会「希望につなげるために」	上級学校、公務員・企業就職、資格取得の道すじと意義を理解 社会人講師(ワークシート) 保護者参加
	7月	教育課程説明会(I)	科目選択の方法と視点を理解 生徒・保護者
		職業インタビュー準備(II)	働く場の理解、職業・職場探索(ワークシート)
		学習計画(II)	長期休業中の学習方法を理解(ワークシート)
		8月	<夏期休業> ・職業インタビュー ・オープンキャンパス ・福祉体験、ボランティア体験への参加
	夏期課題クラス発表会		
	夏期課題年次発表会		前期プレゼンテーション・前期自己評価
	9月	教育課程説明会(II)	生徒・保護者
		全国模試(7月)の結果を基に自己分析	前期期末テストに向けてモチベーションを高揚
		フューチャープラン作成(I)～生き方の展望～	職業生活への展望と上級学校で学ぶ意義を理解 (ワークシート)
		前期期末考査(9月下旬～10月上旬)	
	フューチャープラン完成・選択科目決定・ディベート・総合学科発表会等	10月	フューチャープラン作成(II)～実現への道筋～
フューチャープラン作成(III)～人生設計の具体化～			説明(ワークシート)
11月		カリキュラム作成(I)	教科別相談会①
		カリキュラム作成(II)	教科別相談会②(調査シートチェック)
		三者懇談	
		カリキュラム作成(III)	科目選択最終決定
12月		フューチャープラン作成(IV)～まとめ～	
		フューチャープランクラス発表	プレゼンテーション技術を養成 他者理解
後期中間考査(12月中旬)			
1月		フューチャープラン年次発表(総合学科発表会)	後期プレゼンテーション集大成 (職業インタビュー・ボランティア体験・福祉体験・フューチャープラン等)
		ディベート体験(I)～準備～	クラス毎にテーマ設定・班分け(ワークシート)
2月		ディベート体験(II)～基礎実践～	クラス毎に班対抗のディベートを実施
		ディベート体験(III)～発展実践～	クラス毎に班対抗のディベートを実施
3月		「キャリアプランニング I」のまとめ	後期自己評価、アンケート、2年次の目標設定等
		後期期末考査(3月上旬)	

◎「キャリアプランニング」としての連携(外部講師)の考え方  
 <生徒向け>  
 職業理解のための社会人講師：キャリアアドバイザーボード、卒業生、その他  
 学問分野理解のための社会人講師：近隣大学・包括協定校の大学・専門学校講師、その他  
 <教員向け>  
 カウンセリング研修講師：指導主事、スクールカウンセラー、その他

○ キャリアプランニングⅡ

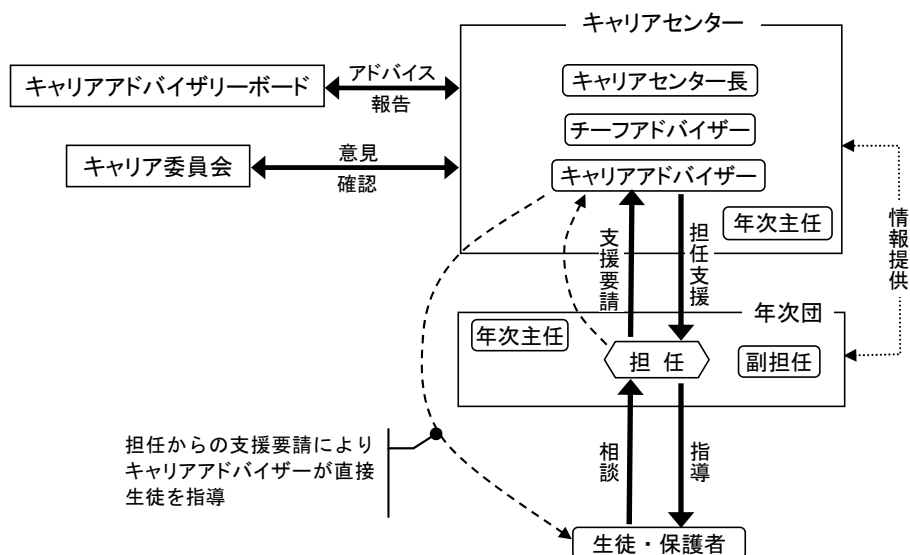
キャリアプランニングⅡ (2年次 通年週1時間)			
テーマ	職業理解の深化と課題研究の理解		
月	内容	備考	
インターンシップ等	4月	オリエンテーション	1年次フューチャープランの確認、内容説明
		進路学習(職業)	具体的進路先を提示し、職業研究とアンケートを実施(キャリアセンターが担当)
	5月	職業研究・グループ分け	興味ある職業に応じたグループに分かれて
		職業理解講話	職業ごとの社会人による講話(地域・保護者・OBなどに依頼)
		グループ研究(Ⅰ)	企業研究スタート
	6月	グループ研究(Ⅱ)	アポイントの取り方や電話のかけ方を指導
		進路学習(上級学校)	学問系統別上級学校説明(キャリアセンターor大学などで)
		グループ研究(Ⅲ)	インターンシップ先決定
	7月	グループ研究(Ⅳ)	インターンシップ先研究
		グループ研究(Ⅴ)	マナー指導、インターンシップ計画書提出
	8月	インターンシップ	
	9月	報告・発表準備(Ⅰ)	インターンシップ報告書作成
		報告・発表準備(Ⅱ)	インターンシップ報告書作成
		グループごとに発表	
		全体発表会	
選択科目決定・ブレ課題研究等	10月	まとめ、自己評価・感想	
		オリエンテーション	内容説明、課題テーマ提示・説明(テーマは各教科から提示)
		課題研究テーマ選択、グループ分け	グループ内係分担、計画書作成
	11月	カリキュラム作成(Ⅰ)	科目説明
		カリキュラム作成(Ⅱ)	教科別相談会①
		カリキュラム作成(Ⅲ)	教科別相談会②(調査シートチェック)
		カリキュラム作成(Ⅳ)	科目選択最終決定
	12月	課題研究、発表準備(Ⅰ)	
	1月	課題研究、発表準備(Ⅱ)	
		課題研究、発表準備(Ⅲ)	
		中間報告	
	2月	課題研究、発表準備(Ⅳ)	
		課題研究、発表準備(Ⅴ)	
		課題研究クラス発表 課題研究全体発表(総合学科発表会)	
	3月	まとめ、自己評価・感想	春休みに向けて、次年度の予定

### ○ キャリアプランニングⅢ

キャリアプランニングⅢ (3年次 前期週2時間)		
テーマ	課題研究の実践	
月	内容	備考
4月	オリエンテーション	内容説明、テーマ例示、調査・研究方法(自己の進路・興味関心に関連する課題)
	後期の科目選択説明	後期の講座説明、講座選択アンケート実施
	進路講話	「人生のあり方、生き方」をテーマとする
5月	テーマ選定、計画書作成	テーマを選び、内容や予定などを報告
	課題研究、発表準備(Ⅰ)	
	課題研究、発表準備(Ⅱ)	
6月	課題研究、発表準備(Ⅲ)	
	課題研究、発表準備(Ⅳ)	
	クラス内中間発表会	
7月	課題研究、発表準備(Ⅴ)	
	課題研究、発表準備(Ⅵ)	夏休みの過ごし方
8月		
9月	課題研究、発表準備(Ⅶ)	
	課題研究クラス発表(Ⅰ)	
	課題研究クラス発表(Ⅱ)	
	課題研究全体発表(総合学科発表会)	
10月	まとめ、自己評価・感想	

### ③ キャリア教育推進体制

- 今までの進路指導部を発展させた組織「キャリアセンター」を新たに設置し、従来の進路指導における出口指導に止まらず、キャリア教育や連携教育、学力向上、資格取得、「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の企画運営等を行う学校の中心部署として位置付ける。
- キャリアセンターには、キャリアセンター長(副校長・教頭)、チーフアドバイザー、キャリアアドバイザー(進路指導のベテラン教員)及び年次主任を配置し、進路指導の窓口となる学級担任を支援する。
- 「キャリアアドバイザーボード」はスーパーバイザー(例: 大学、企業などから数名)で構成され、キャリアセンターに対し定期的にキャリア教育に関するアドバイスをを行う。
- 「キャリア委員会」はキャリアセンターの構成員と学校マネジメント委員会の委員とで構成される会で、年次団及び各部からの意見を反映させるとともに、キャリアセンターが企画・立案したものを確認し、各部・年次に周知する。

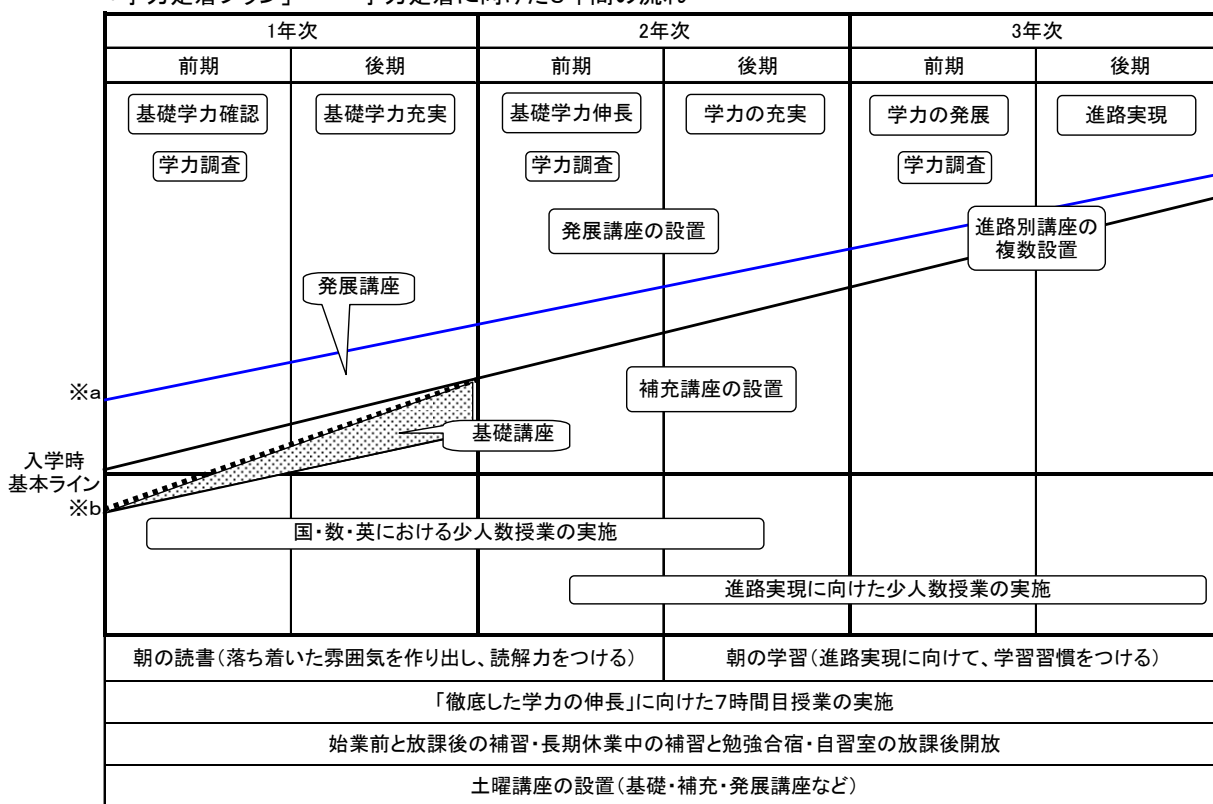


(2) 「徹底した学力の伸長」について

① 生徒それぞれの進路希望を実現させることを目的とする学力伸長へ向けた取組み

- a 入学時学力調査により生徒の学力を把握し、基礎学力の充実に向けた「国語・数学・英語」の増単や少人数授業の実施により、2年次までに成績上位者の伸長と下位者の平均ラインへの引き上げを行う。
- b 「徹底した学力の伸長」に向けた7時間目授業を週4回実施する。なお、実施に当たっては生徒及び教員への負担や部活動への配慮を行う。
- c 半期ごとに目標を定めた学習指導を行う。
- d 進路実現に向けた少人数授業を実施する。
- e 2年次以降の科目選択（時間割作成）において、生徒がイメージできる進路別の時間割モデルを提示する。
- f 「朝の読書または朝の学習（10～15分）」を実施する。
- g 始業前と放課後の補習、長期休業中の補習と勉強合宿、自習室の放課後開放を行う。
- h 土曜講座を開設する。

「学力定着プラン」……学力定着に向けた3年間の流れ



※aは入学時、学力が平均を上回っている生徒の成長ライン ※bは入学時、学力が平均を下回っている生徒の成長ライン

② 学力伸長の具体化

- a 1年次
  - ・ 国語は「国語総合」を1単位増単して5単位とする。
  - ・ 数学は「数学Ⅰ」3単位に「数学A」2単位を加えて5単位とする。
  - ・ 英語は「英語Ⅰ」を1単位増単した4単位に「オーラルコミュニケーションⅠ」2単位を加えて6単位とする。
- b 2年次
  - ・ 国語は「現代文」2単位を設定する。
  - ・ 英語は「英語Ⅱ」4単位を設定する。
- c 3年次
  - ・ 国語は「現代文」3単位を設定する。

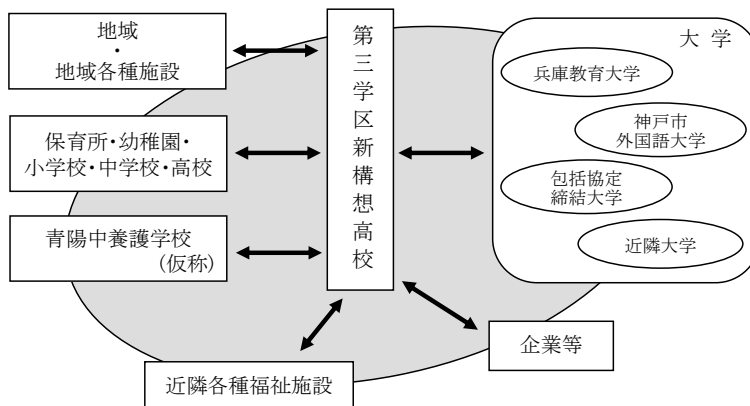
※ 教育課程の詳細は「3 教育課程」参照。

### (3) 「積極的な地域連携」について

#### ① 連携教育の取組み

体験的学習や実習により、コミュニケーション能力や実践力を養うことを目的として、地域及び近隣教育機関、企業等との連携に積極的に取組み、継続性のある教育活動を行う。

第三学区新構想高校における地域連携プラン



#### ② 連携教育の具体化

種別	連携先	連携内容
大学 (短大・専門学校を含む)	兵庫教育大学 神戸市外国語大学 包括協定締結大学 近隣大学 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特色ある授業展開 「学びの接続」を視野に入れた授業連携 例) ・「教育・人間」科目群における兵庫教育大学等からの講師派遣 ・英語・アジア系言語科目における神戸市外国語大学からの講師派遣 ・法学・経済・経営・社会学・観光学分野等での大学教員と連携した計画的な授業展開</li> <li>○公務員講座や各種資格取得のための課外講座への専門学校等からの講師派遣</li> <li>○大学訪問・体験講座・進路系統別講演会等の実施</li> <li>○大学入学前プログラムの高大共同開発・実施</li> <li>○学校インターンシップ学生の受入</li> <li>○福祉科・情報科の教育実習の受入</li> <li>○大学のリメディアル教育への高校教員の派遣 例) 高大連携講座への英国数理等基礎講座を提供</li> </ul>
高校	市立各高等学校	○市高ディベート大会・プレゼン大会の企画運営・実施
養護学校	青陽中養護学校(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○看護・福祉系進学希望者の体験活動</li> <li>○各種行事における交流</li> <li>○連携授業の実施</li> </ul>
中学校	近隣中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高教員の連携・交流 ・学習内容研究を行い、中高間での教科毎の接続を検証 ・授業交流(公開・出張授業)</li> <li>○中学校での進路に関するプレゼン ・出身中学校で生徒がプレゼンを実施、教師が補完 ・保護者、教員を対象とした高校教員による講演会 例) 高校教育改革の現状説明、大学関連の講演会</li> <li>○学校公開授業体験プログラムの実施</li> <li>○部活動合同練習会の実施</li> </ul>
近隣地域	小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事等の準備補助・参加</li> <li>○教育・人間科目群の科目における実習(小学校・幼稚園・保育所)</li> <li>○高等学校学校行事への招待</li> <li>○幼児教育・初等教育・福祉系進学希望者の体験活動</li> <li>○合同地域清掃活動</li> </ul>
	幼稚園	○特別支援を要する児童・園児の支援補助
	保育所	○小学校保護者・教員対象の説明会・講演会等の実施
	自治会・老人会 子ども会・NPO 等	例) 「最近の高校について」のテーマでの講演会
各種施設	特別養護老人ホーム 身体障がい者療護施設 身障者授産施設 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉・健康科目群の科目における実習</li> <li>○長期休業中のワークキャンプ</li> <li>○定期的な施設訪問</li> </ul>
企業	近隣各企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場インターンシップの実施</li> <li>○キャリアプランニング等における講演会・ワークショップ</li> </ul>



(4) 「豊かな心の育成」について

① 「豊かな心の育成」の取組み

- a 1年次「総合的な学習の時間（1単位）」で、ワークショップや探求的な学習を主とする「人間関係」の授業を実施することにより、福祉マインド、規範意識、コミュニケーション能力等の育成を図る。
- b 2年次3年次では、HR、授業、学校行事、「キャリアプランニングⅡ・Ⅲ」の中でも「豊かな心の育成」を図る。
- c 地域社会での福祉活動やボランティア活動を学校を挙げて実践する。

② 「豊かな心の育成」の具体化

- a 年間プログラムの編成は、「キャリアプランニングⅠ」の指導計画と関連づける。
- b 青陽中養護学校（仮称）との連携は、日常の教育活動全体の中で実施する。
- c 年次単位での講演会は、地域や保護者へも参加を呼びかける。
- d 福祉理解のプログラムについては、「キャリアプランニングⅠ」やHRを含め週4時間の中で配置する。

月	分類	項目	ねらい	授業形態
4	基本方針	「人間関係について、なぜ、学校はもっと教えないのだろうか」	(1) 人間関係のしくみや心理を知ることが役に立つことを知る。 ・無知による無用なトラブルを減らすことができる。 ・積極的に人との対応（かかわり）を持つことができるようになる ・自分を素直に表現できるようにする ・無用な恥ずかしさを減らすことができる ・人前での緊張感をコントロールできるようにする ・コミュニケーション能力を高めることができる ・お互いに分かり合える人間関係を築くことができる (2) 「人間関係」は人が生きていくうえで大切なことであることを認識させる。 ・人間関係がうまくいくと毎日が楽しい、しあわせを感じることができる。 ・人間関係をうまく築くにはどうしたらいいのかを考える。	演習・グループ活動
5	自分を見つめる	私に気づいていますかー自分を見つめ直してみましょう	自己の個性や能力についての理解を深め他者の個性や能力の多様性を認識させ、自己を高めようとする意欲と態度を養う。	学級単位での演習形式
	自分を見つめる	友達を作りにくいタイプはあるのかー私はどんな性格かー	自分の性格を把握して、友達作りを考える	演習・個人
6	いじめ	「いじめ」のない学級・学校作り	「いじめ」はその方法や理由に関係なく相手の人権を侵す行為である。教育の場である学校の中で「いじめ」があるとすれば、それは被害者にとって苦痛の場になってしまう。学級・学校という集団の中で、だれもが居心地よく過ごせるようにするためには、どうしたらよいか考えさせクラスメートの個性や能力の多様性を認識させ、学級の和づくりの意欲と態度を養う。	演習
	礼儀・マナー	あいさつは人間関係の入口である 礼儀、この大切なことー人を大切にす る気持ち。人を尊敬 する気持ちー	あいさつの大切さを学び、実行できるようにする。 あいさつが人間関係で大切であることを学ぶ	演習・個人or グループ 全員一斉
7	人間関係で大事な こと	人に好かれるための 27の条件 人に嫌われる25の 条件	円滑な人間関係を作るために必要なことは何かを確認する。	演習・個人
	福祉理解	ユニバーサルデザイン の推進運動を知る	障がいのある人、老人、日本語がわからない(字が読めない)人が街に出たとき、数多くの障壁がある。そのためにユニバーサルデザインが考えられ、ものづくり、まちや建物づくり、しくみづくりなどで、だれもが暮らしやすい社会となるために進められている運動であることを理解し、相手の立場に立った見方ができる力を培う。	全員一斉
	福祉理解	ボランティア活動の 姿勢と意義		
9	人間関係のコツ	人は見かけによらぬ ものー表面に見える ものがその人のす べてではないー	表面に見えるものがその人のすべてではないと知っておくこと	演習・個人or グループ
	自分を見つめる	しあわせ観	しあわせ観は人それぞれであることを知る。 誰からも批判されず受け入れてもらえることの心地よさを感じる。 グループで話し合うときのマナーを習得	個人+グループ学 習
	いじめ	携帯電話モラル (ネット被害)	高校生が被害者・加害者になるネット上でのトラブルが増えている。高校生の携帯電話所持率95%（H19, 県教育委員会）の状況で、誰もが被害者または加害者になりうる。特にネット上での問題について、トラブルの具体例、ネット社会のモラル、被害にあったときの対処等を学ぶ。	全員一斉

月	分類	項目	ねらい	授業形態
10	男女交際	「デートDV・セクハラ」防止講座	セクハラや交際相手からの暴力であるデートDVについて学び、相手の人格を尊重することの重要性を理解するとともに、受けたときの対応、相談窓口などを学ぶ。	全員一斉
	人間について	パラダイムとは何かー自分を制限する考え方を知るー	自分にとって当たり前になっている固定化したものの見方・考え方（パラダイム）を知る。パラダイムは人・家族・社会・人種・民族で異なり、行動の原因になっている。そこから人種差別・地域紛争まで引き起こす源になっていることを知る。	HRでの講義形式
	コミュニケーション	さわやかな「自己表現」・・・「わたしもOK、あなたもOK」、そんなさわやかな友人関係を考えてみましょうーアサーション・トレーニングー	相互尊重の精神に根ざして人間関係をより積極的、主体的なものにし、自他を生かす実践的な能力と態度を育てる。	個人+グループ学習
11	自分を見つめる	私が大切にしたいもの・・・大切にしたいものは何ですか？	自己の価値観を見つめるとともに、多様な価値観の存在に気付くことを通して、主体的で自立的な生き方をしようとする意欲をかめる。	演習
	人間関係で大事なこと	約束を破れば、かけがえのない信頼を失う	人間関係は信頼の上に成り立っていることを確認する。	演習・個人
	いじめ	インターネット・ブログへの落書き、いたずらの防止	学校や家庭・個人にまで普及している便利で無限の可能性を秘めているインターネット。しかし、使い方を誤ってしまうと個人情報が出たり、他人を誹謗・中傷するような内容を瞬時に誰からも見られるようにしてしまう怖さもある。インターネット社会では、その危険性を認識し、正しい利用のあり方を考えるとともに、私たちが日常何気なく発したり、耳にする陰口、噂話が、知らず知らずのうちに人権を侵害していることに気付かせる。	全員一斉
	福祉理解	生命の歴史から障がいなぜ起こるか		
12	福祉理解	聴覚障がい者の生き方		
1	自分を見つめる	君は自分を「どんな人間」だと思っていますかーもっと自分を知らう。もっと自信に満ちた生き方をするためにー	もっと自信に満ちた生き方をするために、世界に一人しかいない自分のことを知る。	教室で講義形式+グループも可
	生きる力	自分の歩みたい人生を歩んでいるか。人に好かれようと思って、人に合わせる人生ばかりを歩んでいてはもったいない。	自分の歩みたい人生を歩んでいるか。人生を楽しんでいるかを考えてみる。	全体
	礼儀・マナー	相手に敬意を払う《人に恥をかかせる》	教材を材料にして話し合うことで相手の気持ちを考えた言葉遣いができるようにする。マナーについて考え、自分の行動を振り返る。	グループ学習
2	人間関係のコツ	賢い利己主義者になろうーギブ・アンド・テイクの関係、相手の気持ちを共有できる人、相手の利益を考慮できる人ー	ギブ・アンド・テイクの関係を考えて行動することを意識させる。	演習・個人
	人間について	「ゼウスと人間」よりー人間は理性という力をもった動物、学習できる脳をもった動物ー	人には理性という力があり、学習することにより役に立つようになることを童話から学ぶ。	教室で講義形式+グループも可
	人間関係で大事なこと	自分がされたくないことは、人に対してもするべきではない	(1) 相手の気持ちを考えた行動をすること。 (2) 自分の行動を相手はどう思うかということ意識させる。	演習・個人
3	コミュニケーション	もしもあなたが親ならー20年後あなたが親ならどんな対応をしますか	それぞれの成長段階における自己の役割と自立に伴う自己責任の重要性についての自覚を深め、自立への意欲と態度を養う。また、親子のコミュニケーションの大切さにも気付かせる。	ロールプレイング形式
	福祉理解	ピアカウンセリング	ピアカウンセラーの指導により仲間としての意識を深め、共有する問題点の克服をめざす。	全員or複数クラスor単独クラス

## 2 科目群（系列）

### (1) 科目群の考え方

新構想高校では、生徒が科目選択を行う際に目安となる5つの科目群を設ける。自己のキャリアとつながった科目選択になるよう担任とキャリアセンターとで丁寧な指導を行う。

注 1) 総合学科では、生徒の個性を尊重し生徒の興味・関心や進路希望にそって、専門科目（専門学科で学習する科目）を含む多様な科目群の中から自由に科目を選択して自分の時間割を作ることができる。

注 2) 科目群とは、体系的や専門性等の学問領域において、関連する科目の集まりを指す。例えば「類型」のように、そこに所属し、その「類型」に設定されている科目だけから選択を行うものではない。

### (2) 科目群の具体化

科目群	学問領域	選択科目の例
国際・文化	言語を通じた異文化理解や国際理解、日本語、歴史、地理、社会、経済等	日本紹介、総合英語研究A、初級中国語、古典、国語表現Ⅰ、国際交流史、世界史B研究Ⅰ、国際関係学、政治・経済、公民科目研究等
科学・環境	理学、工学、数学、自然環境や生活環境、医薬看護等	基本数学ⅠA、数学Ⅱ、数学ⅡB探究、数学Ⅲ、実用数学、物理Ⅰ、生物Ⅰ、化学Ⅱ、地球環境、自然科学史、生活理科、実用生物、化学Ⅰ実験・研究等
福祉・健康	社会福祉、介護福祉、医療福祉、保育、体育、栄養等	社会福祉基礎、基礎介護、福祉住環境、競技スポーツ、専門スポーツ、リハビリテーション論、発達と保育、食文化、スポーツ栄養、乳幼児理解等
経営・情報	経済、経営、観光、起業、マルチメディア、情報処理等	簿記、会計、マーケティング、経済活動と法、情報処理、ビジネス情報、観光基礎、アルゴリズム、ネットワークシステム、マルチメディア表現等
教育・人間	幼児教育、初・中等教育、特別支援教育等	教育入門・体験、学内教育実習プログラム、教育問題の理解と発信、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、ソルフェージュⅠ、絵画、硬筆の書、筆の書、総合造形等

### 3 教育課程

#### (1) 必修科目と学校指定必修科目

##### ① 週時程

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年次	前期	国語総合 (1単位増単)				現代社会		数学Ⅰ		※数学A		理科総合A		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		英語Ⅰ (1単位増単)				※オーラル・コミュニケーションⅠ		家庭基礎		情報C		人間関係		キャリアアプランニングⅠ		LHR	
	後期	※現代文		※英語Ⅱ			地歴		理科		体育		保健		キャリアアプランニングⅡ		18単位 (各自のキャリア選択に基づく選択科目)														LHR				
2年次	前期	※現代文		※英語Ⅱ			地歴		理科		体育		保健		キャリアアプランニングⅡ		18単位 (各自のキャリア選択に基づく選択科目)														LHR				
	後期	※現代文		※英語Ⅱ			地歴		理科		体育		保健		キャリアアプランニングⅡ		18単位 (各自のキャリア選択に基づく選択科目)														LHR				
3年次	前期	※現代文		体育		地歴A		キャリアアプランニングⅢ		25単位 (各自のキャリア選択に基づく選択科目)														LHR											
	後期	※現代文		体育		地歴A		キャリアアプランニングⅢ		25単位 (各自のキャリア選択に基づく選択科目)														LHR											

- 注1) 2年次の理科は、「理科総合B」又は「理科Ⅰ（「物理Ⅰ」「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「地学Ⅰ」）」。ただし、「理科Ⅰ」を選択する場合は選択枠からの2単位をあわせて4単位とする。
- 注2) 2年次の地歴は、「地歴A（「世界史A」「日本史A」「地理A」）」又は「地歴B（「世界史B」「日本史B」「地理B」）」。ただし、「地歴B」を選択する場合は選択枠からの2単位をあわせて4単位とする。
- 注3) ※印の科目は、学校指定必修科目を示す。

	必修科目と学校指定必修科目
	各自のキャリア選択に基づく選択科目

##### ② 教育課程

教科・科目		標準 単位数	1 年次	2 年次	3 年次	合 計
国語	国語総合	4	5			10
	現代文	4		2	3	
地理・歴史	世界史A	2		●2	○2	4~6
	世界史B	4		●4		
	日本史A	2		●2	○2	
	日本史B	4		●4		
	地理A	2		●2	○2	
地理B	4		●4			
公民	現代社会	2	2			2
数学	数学Ⅰ	3	3			5
	数学A	2	2			
理科	理科総合A	2	2			4~6
	理科総合B	2		▼2		
	物理Ⅰ	3		▼4		
	化学Ⅰ	3		▼4		
	生物Ⅰ	3		▼4		
地学Ⅰ	3		▼4			
保健体育	体育	7~8	3	3	2	10
	保健	2	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	※2			2
	美術Ⅰ	2	※2			
	書道Ⅰ	2	※2			
外国語	英語Ⅰ	3	4			10
	英語Ⅱ	4		4		
	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	2			
家庭情報	家庭基礎	2	2			2
情報	情報C	2	2			2
選択科目				14~18	25	39~43
計			30	32	32	94
産業社会と人間	キャリアアプランニングⅠ	2	2			2
総合的な学習の時間	人間関係	1	1			3
	キャリアアプランニングⅡ	1		1		
	キャリアアプランニングⅢ	1			1	
特別活動	ホームルーム		1	1	1	3
ボランティア(学校外の学修)			(1)	(1)	(1)	(2)
合計			34	34	34	102

※を付した3科目の中から1科目選択

●を付した6科目の中から1科目選択

○を付した3科目の中から1科目選択

2年次あるいは3年次で世界史は必修（3年次はAのみ）

▼を付した5科目の中から1科目選択

## (2) 選択科目

下記の表は便宜上教科別に表記しているが、科目群は関連する科目の集まりであり、自己のキャリア選択に応じて複数の科目群から自由に科目を選択できる。

科目群	教科	選択科目			進路の方向性
		2年次	2・3年次	3年次	
国際・文化	国語	古典①(2)	国語表現 I (2) ◎現代文探究A(2) 古典探究 I (2)	古典②(2) ◎自己表現(2) ◎日本文学史(2) ◎現代文探究B(2) 古典探究 II (2) ◎漢文探究(1) ◎漢字文化(1)	文学 語学 社会学 法律 経済 教育 地理 歴史等
	地歴	◎人物史(2) ◎フィールドワーク(2) 世界史B(4) 日本史B(4) 地理B(4)	—	世史B・日史B・地理B研究 I (2) 世史B・日史B・地理B研究 II (2) ◎文化史(2) ◎国際交流史(2) ◎史料講読(2) ◎地歴研究(1)	
	公民	政治・経済(2) 倫理(2) ◎国際関係学(2)	—	公民科目研究(2) ◎時事問題(2) ◎経済問題(2) ◎市民生活学(1)	
	外国語	◎コミュニケーション英語A(2) ◎英語読解研究A(2) ◎総合英語研究A(2) ◎スタンダードライティング(2)	異文化理解(2) ◎日本紹介(2) ◎通訳英語研究(2) ◎初級ハングル(2) ◎初級中国語(2)	リーディング(4) ◎コミュニケーション英語B(2) ◎英語読解研究B(2) ◎総合英語研究B(2) ◎アドバンスライティング(2) ◎発展英語(1)	
科学・環境	数学	数学B(2) 数学 II (4) ◎基本数学 I A(2) ◎発展数学 I A(2)	—	数学 III (4) 数学C(2) ◎実用数学(2) ◎教養数学(2) ◎数学 I A探究(2) ◎数学 II B探究(2) ◎数学探究(1)	理工 医学 農学 教育 薬学 看護 栄養 医療技術等
	理科	—	物理 I (4) 化学 I (4) 生物 I (4) 地学 I (4) ◎地球環境(2) ◎自然科学史(2) ◎生活理科(2)	物理 II (4) 化学 II (4) 生物 II (4) 地学 II (4) 物理 I 実験・研究(2) 化学 I 実験・研究(2) 生物 I 実験・研究(2) 地学 I 実験・研究(2) ◎実用生物(1)	
福祉・健康	保健体育	◎競技スポーツ(2) ◎健康スポーツ(2) ◎個人スポーツ(2) ◎集団スポーツ(2)	—	◎専門スポーツ(2) ◎福祉スポーツ(2) ◎生涯スポーツ(2) ◎リハビリテーション論(2)	体育 教育 栄養 社会福祉 介護福祉等
	家庭	発達と保育(2) 生活環境(2) フードデザイン(2) ◎スポーツ栄養(2)	—	食文化(2) ◎乳幼児理解(2) ◎ソーイング(1)	
	福祉	—	社会福祉基礎(2) 社会福祉援助技術(2) ◎福祉住環境(2) ◎ボランティアリーダー論(2) ◎福祉レクリエーション学(2)	基礎介護(2)	
経営・情報	情報	情報産業と社会(2) 情報と表現(2) アルゴリズム(2) 情報システムの開発(2) ネットワークシステム①(2) 図形と画像の処理(4) マルチメディア表現①(2)	コンピュータデザイン(2)	ネットワークシステム②(2) マルチメディア表現②(2)	マルチメディア 情報 経済 経営 観光 教育 税務 起業等
	商業	簿記(4) 原価計算(4) 情報処理(4) ビジネス情報(4) ◎観光基礎(2)	商品と流通(2) マーケティング(2) 経済活動と法(2)	会計(4) 課題研究(2) プログラミング(2) 文書デザイン(2) ◎旅行業務(2)	
教育・人間	芸術	音楽 II (2) 美術 II (2) 書道 II (2)	ソルフェージュ I (2) ビジュアルデザイン(2) 絵画(2) ◎実用の書(2) ◎総合造形(2)	ソルフェージュ II (2) 器楽(2) ◎筆の書(2) ◎音楽の歴史(1) ◎デッサン(1) ◎硬筆の書(1)	幼児教育 初等・中等教育 特別支援教育等
	教育	◎教育入門・体験(2) ◎校内教育実習プログラム(2)	—	◎教育問題の理解と発信(2) ◎教育の探求(2)	

注) ①及び②を付した科目（「古典」・「ネットワークシステム」・「マルチメディア表現」）は両方を履修すること。  
◎は学校設定科目、( )内の数は単位数を表示している。選択条件の詳細についてはシラバスを参照。

## 4 二学期制

### (1) 二学期制の考え方

新構想高校では二学期制を導入し、多様な教育課程の編成や授業時数の確保により、学習の充実を目指す。

### (2) 二学期制の具体化

- ① 半期認定科目を設定する。
- ② 前期の終わりを10月の第2月曜日とし後期の始まりを10月の第2月曜日の翌日とする。
- ③ 三学期制と比べて定期考査が1回少ないので、学力定着のための工夫を行う。



## 6 学事コンピュータシステム

### (1) 検討の視点

#### ① 情報セキュリティの確保

学校で扱う情報は生徒個人の様々な情報が含まれており、情報セキュリティの確保のために、重要なデータはすべてサーバで一元管理し、不正な利用や漏えいのリスクを軽減するシステムを構築する。

#### ② 教育活動の質の改善

生徒指導に役立て、日々の教育活動の質を向上させるために、生徒の情報を各教員で共有することにより、新構想高校の目標の一つであるキャリア教育の充実と効率的な学校運営を構築する。

#### ③ 業務の効率化

情報化により教員の事務作業の効率化を図る。特に開校後2年間は3校併置となり、施設設備を共用する中でそれぞれの学校が独自の教育活動を展開するので、それぞれの学校間や各教員間の情報の共有化や、意見交換、迅速な情報伝達を確保するシステムを構築する。

### (2) 求められる機能

#### ① 学籍管理

- a 生徒の基本的な学事情報をデータベース化でき、他のすべての処理の基本となるシステム。
- b 他の機能とのリンク。
- c バックアップ及び更新・変更・削除等の容易さ。

#### ② 出欠管理

- a 迅速な生徒の所在確認。
- b 出欠に伴う個々の指導記録の蓄積や教科担任と学級担任とのスムーズな連携。
- c 入力者である教科担任に負担をかけない操作画面表示（GUI）を用いること。

注）GUI：グラフィカルユーザーインターフェイス

#### ③ 成績処理

- a 成績登録や集計、一覧表等作成の転記ミス点検。
- b 出欠集計における日々の出欠入力データからの移行。
- c 教科、科目による成績集計方法の違いへの対応と、他のアプリケーションからの移行。
- d 入力データのチェック。

#### ④ 帳票作成

- a 通知簿、調査書、成績一覧表、成績会議資料など各種帳票における基本データからの参照による作成。
- b 内容が変化する帳票に対する管理や個人情報保護。

#### ⑤ 時間割管理

- a 時間割変更、科目の入れ替え、自習監督等への対応、出席簿への反映。

#### ⑥ 生徒情報、生徒検索

- a システムが持つ様々な情報（学年・クラス・部活動・資格取得・指導記録など）のセキュリティポリシーに基づく検索、参照。

#### ⑦ グループウェア機能

- a 教員間の情報共有、施設・設備予約管理、各校、各教員のスケジュール管理。

#### ⑧ ハードウェアの導入

- a 一人1台の環境。
- b 学事処理のLANのインターネットへの接続。
- c 十分な容量を持つ電源の確保とサーバ室の空調の独立化。

### (3) その他

- ① 3校併置期間の、各校の学事処理等を考慮したハードウェア、ソフトウェアの導入検討。
- ② グループウェアと学事処理システムの一体化と、学校の実務のワーク・フローにそったインターフェイスを持つ学事システムの導入検討。